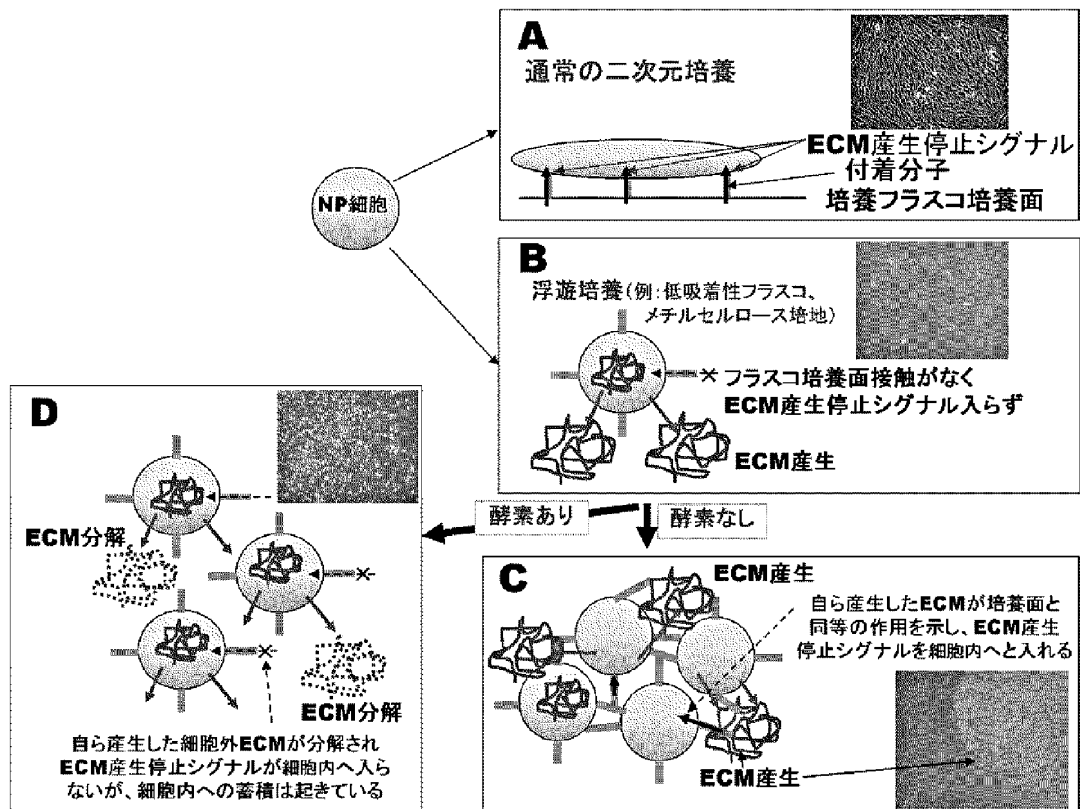
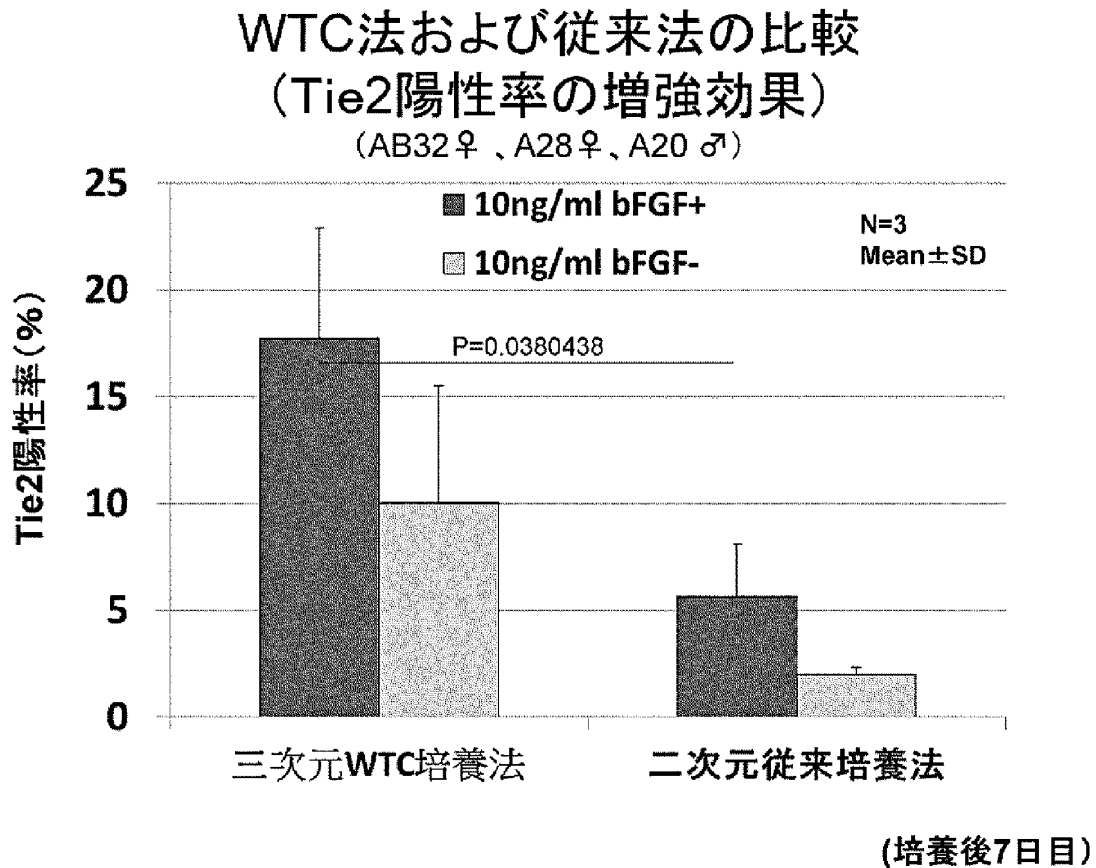


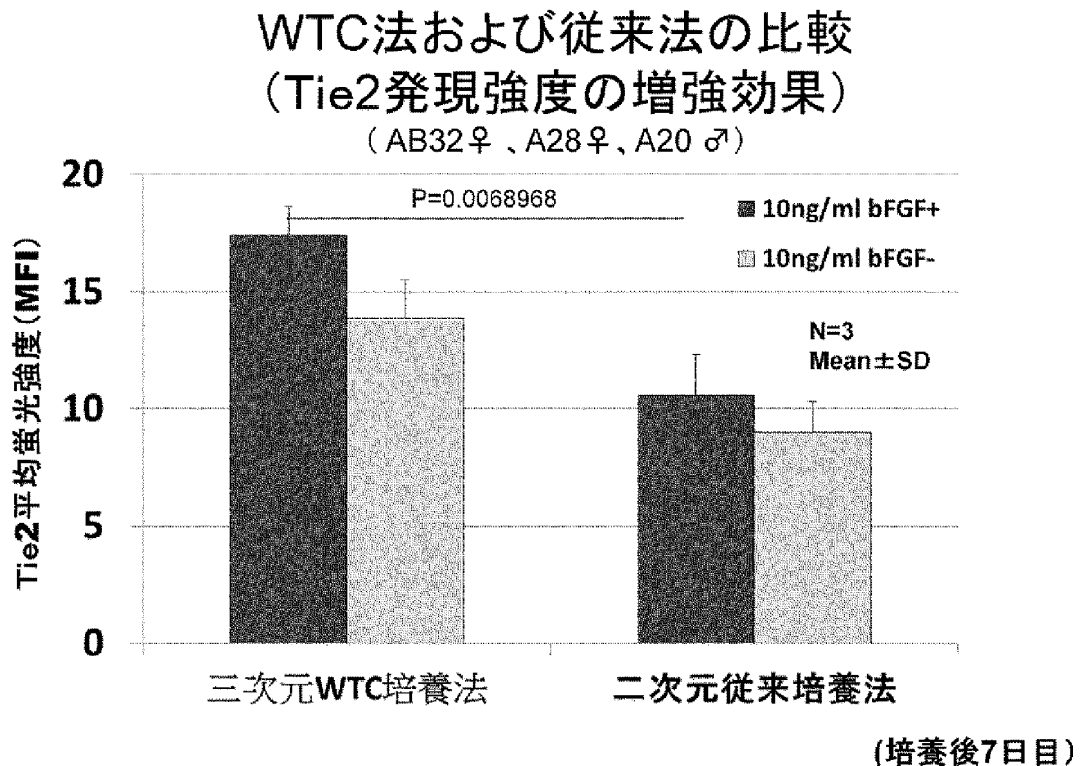
[図1]



[図2]



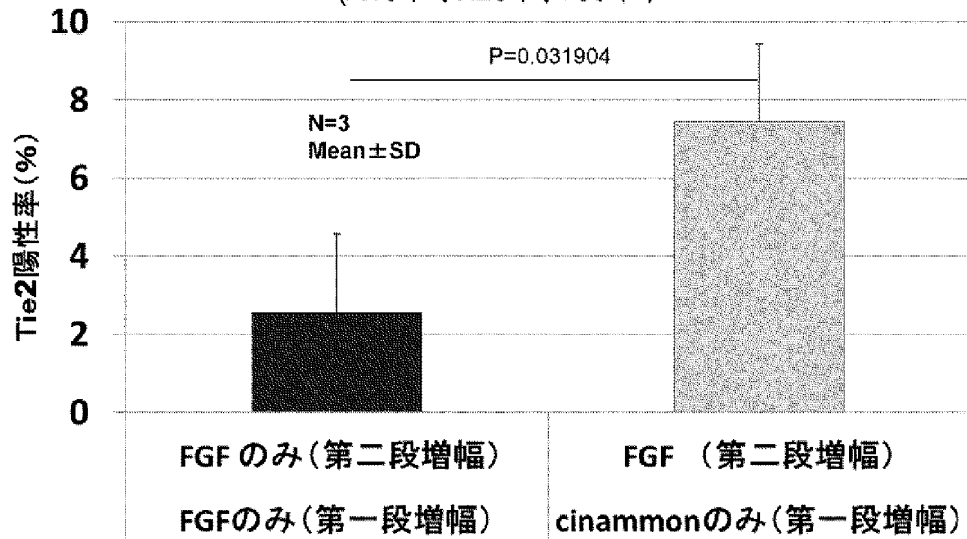
[図3]



[図4]

WTC法におけるシナモン抽出液添加の影響 (Tie2陽性率の増加作用)

(A16♀、K28♀、T38♀)

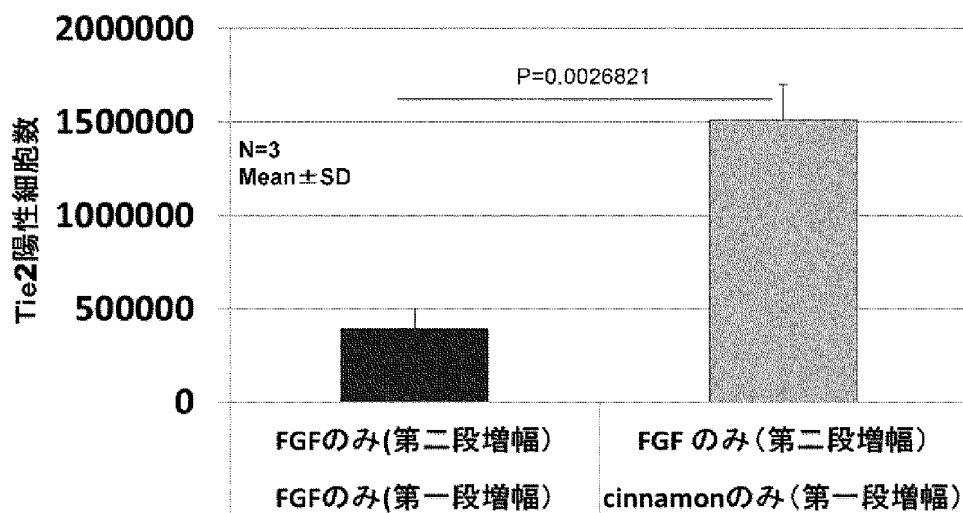


(培養後21日目)

[図5]

WTC法におけるシナモン抽出液添加の影響 (Tie2陽性細胞数 1g組織由来として)

(A16♀、K28♀、T38♀)

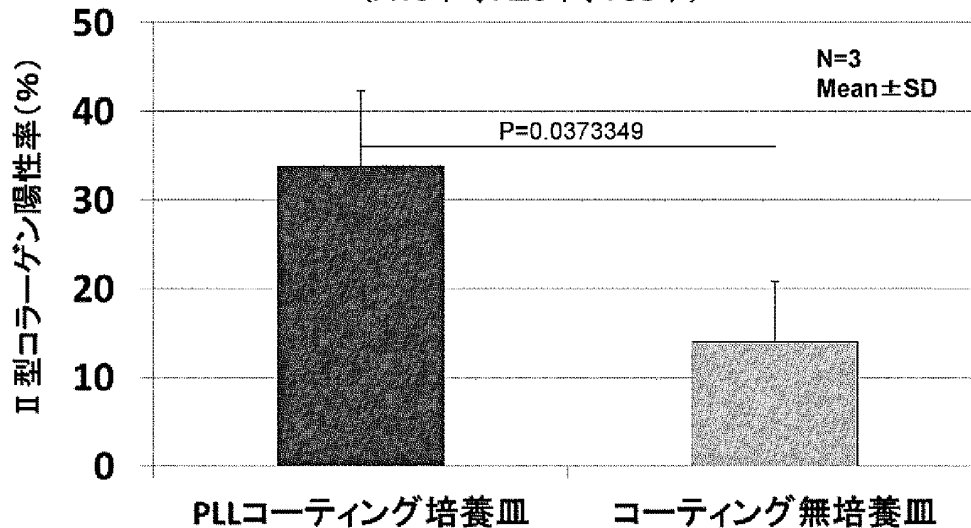


(培養後21日目)

[図6]

シナモン添加WTC法による増殖培養、その後の
分化培養後の細胞内Ⅱ型コラーゲン陽性率の違い
(PLLコーティング剤の有用性)

(A16♀、K28♀、T38♀)

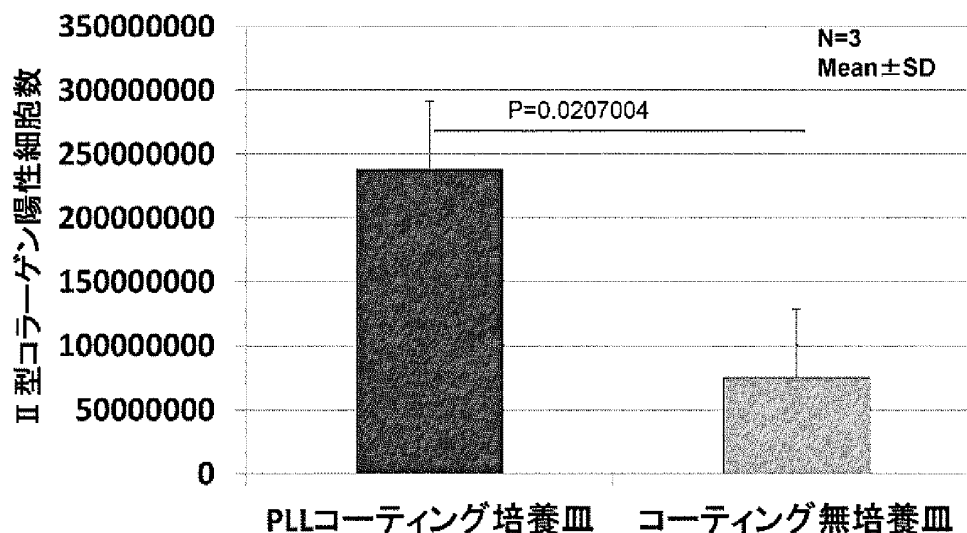


(分化培養後14日目)

[図7]

シナモン添加WTC法による増殖培養、その後の
分化培養後の細胞内Ⅱ型コラーゲン陽性細胞数
(PLLコーティング剤の有用性)

(A16♀、K28♀、T38♀)

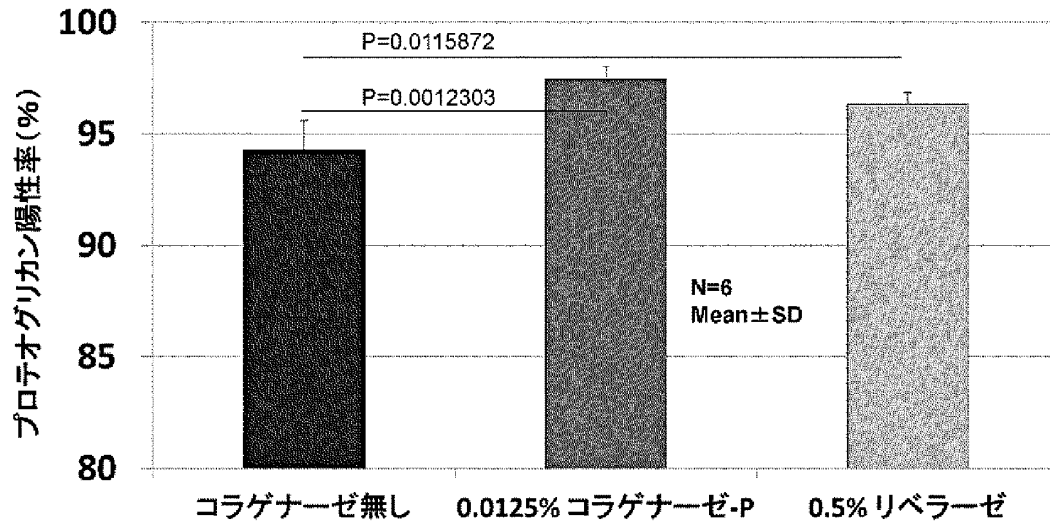


(分化培養後14日目)

[図8]

シナモン添加WTC法による増殖培養、その後の
分化培養後の細胞内プロテオグリカン陽性率の違い
(コラゲナーゼ有無の違い)

(A16♀、K28♀、T38♀)

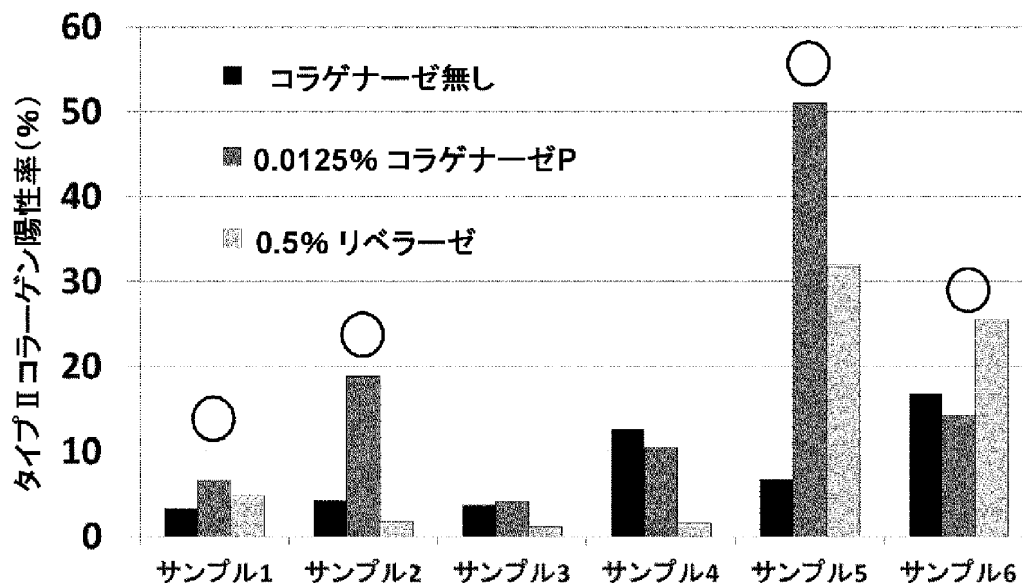


(分化培養後14日目)

[図9]

シナモン添加WTC法による増殖培養、その後の
分化培養後の細胞内タイプⅡコラーゲン陽性率の違い
(コラゲナーゼ有無の違い)

(AB32♀、A28♀、A20♂、A16♀、K28♀、T38♀)



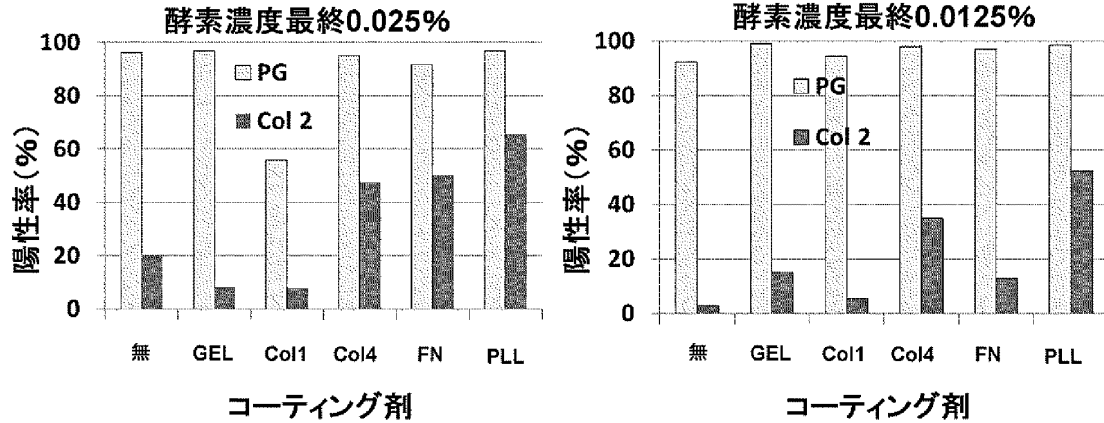
(分化培養後14日目)

[図10]

培養フラスコ コーティング剤の違いによる PG,Col2産生能の違い

酵素: ロッシュ社製「コラゲナーゼ-P」

Flow cytometry法

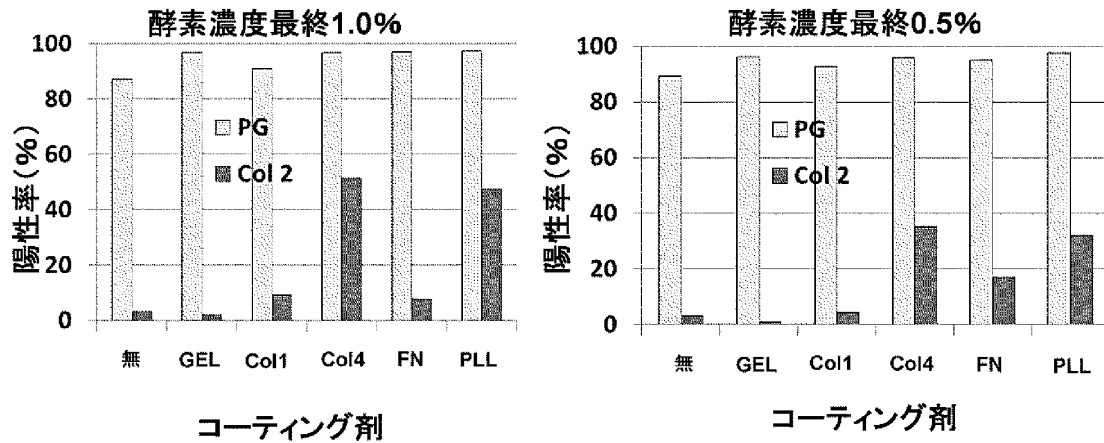


[図11]

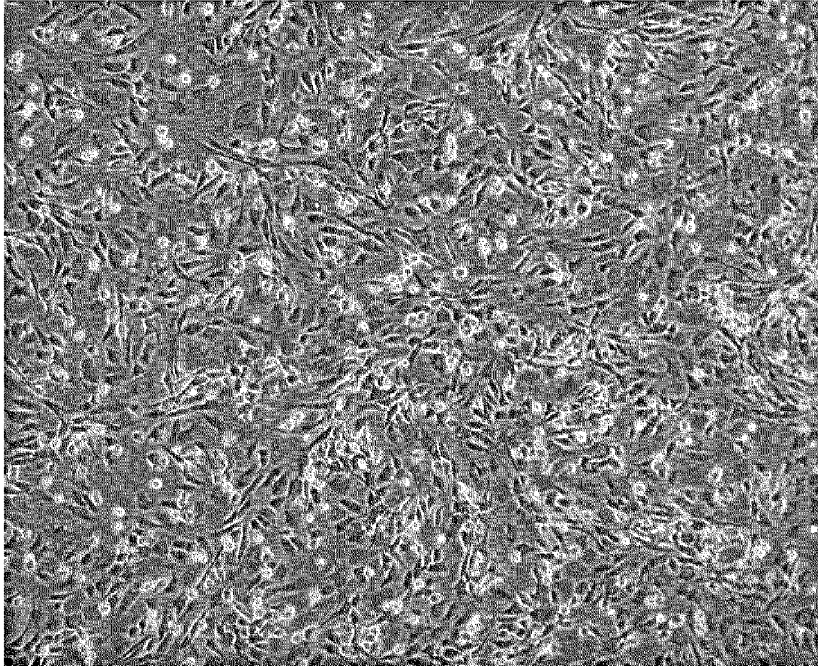
培養フラスコ コーティング剤の違いによる PG,Col2産生能の違い

酵素: ロッシュ社製「リベラーゼ」

Flow cytometry法



【図12】

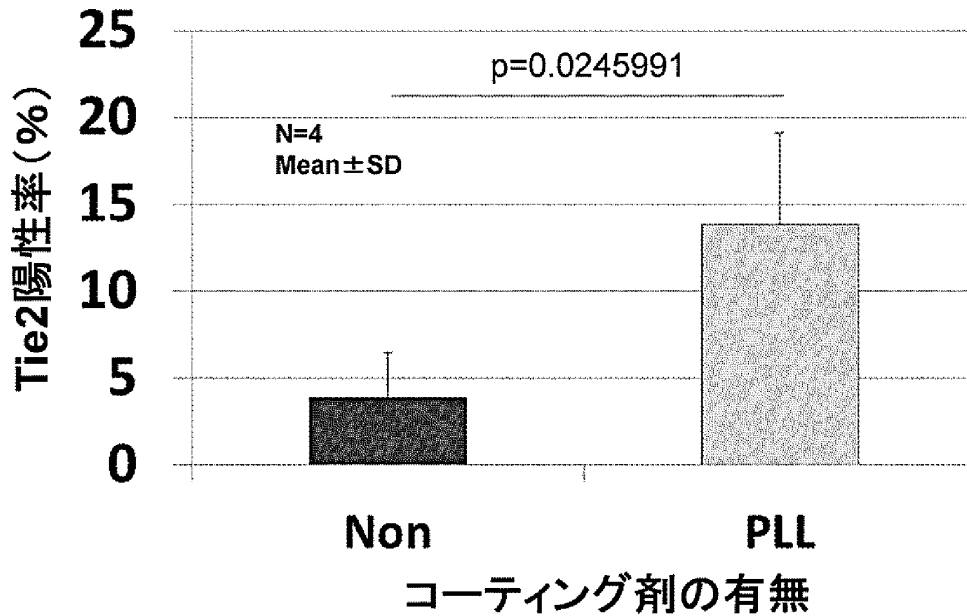


酵素 0.0125%
コーティング剤 PLL

酵素: ロッシュ社製「コラゲナーゼ-P」

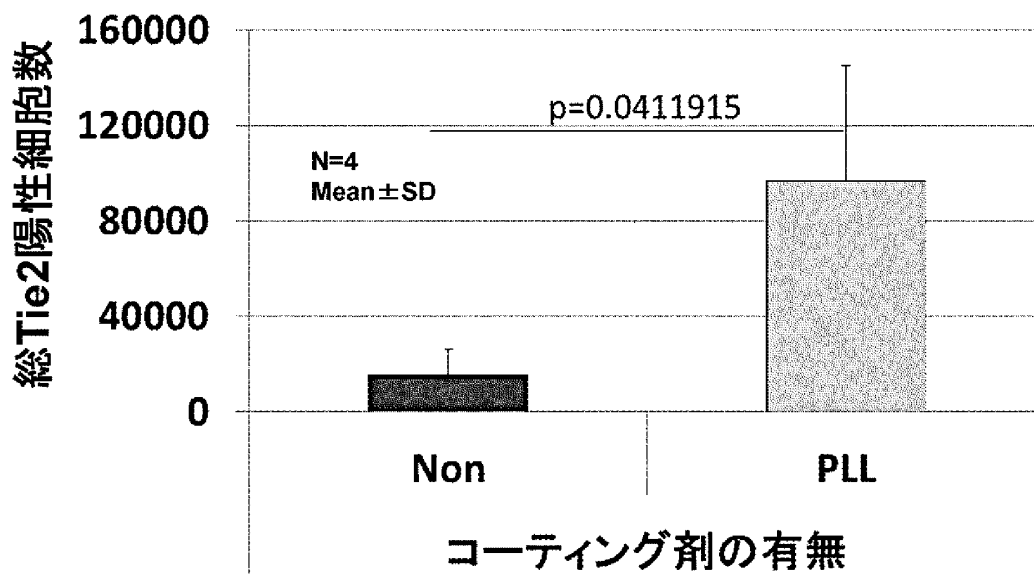
[図13]

シナモンおよびWTC法を用いない増殖培養後の
分化培養時におけるPLLコーティング剤の有用性
(T38 ♀, A28, A16 ♀, E32 ♀)



[図14]

シナモンおよびWTC法を用いない増殖培養後の
分化培養時におけるPLLコーティング剤の有用性
(T38 ♀, A28, A16 ♀, E32 ♀)



[図15]

シナモンおよびWTC法を用いない増殖培養後の
分化培養時におけるPLLコーティング剤の有用性
(A28, A16♀, E32♀)

